十勝毎日新聞
2014年(平成26年)6月19日(木曜日)

「子供だけ」はダメ

注意点守って楽しく川遊び

救命具必要性や雨天時の危険性 大人が正しい知識指導を

教えて！ ひひっと

気温の上昇に伴い、川遊びを楽しむ子供が増えるこの時期。川は子供の身近な遊び場として親しまれている半面、時に幼い命をのみ込む危険もはらむ。予期せぬ水難事故を防ぐには―。川に潜む危険や川遊びの注意点について、ひひっとが調べた。（小縣大輔）

―川にはどういう危険が潜んでいるの？

まず、川が変化に富んだものであると理解してほしい。川は目で見るより深くて流れが速い。川辺では草木が生い茂り、川と岸の境界線が分からない場所も多いんだ。川岸の斜面が崩れ落ち、転落する恐れもあるから注意が必要だよ。

帯広川の保護に取り組む「帯広川伏古地区子どもの水辺協議会」（西21南2付近）の関川三男会長（61）の話では、川底の石の表面には藻が付着して滑りやすく、転んで頭を打つ危険もあるんだ。夏場でも水温が20度に満たない帯広川で転倒して顔が水に漬かると、ショックで気を失ってしまう可能性があるから気を付けて。

特に雨天時は危険。増水して水が濁ると、水中の様子が分からない。遊び半分で近づいてはダメだよ。

―十勝でも川遊びによる事故は多いの？

直近だと、2012年5月に幕別町内の途別川付近で遊んでいた男児（当時5）が亡くなった。11年9月には帯広市内の札内川で中学生5人が丸太に乗って遊んでいたところ、中学2年の男子生徒（当時14）が流されて死亡した。09年5月にも幕別町内の十勝川で遊んでいた小・中学生4人が流されて、小学4年の女子児童（当時10）が命を落としている。

こうした川遊びの最中の事故は十勝でも後を絶たないが、共通して見られるのは子供1人、あるいは子供だけで遊んでいたことだ。親の目が届かない場所で悲劇は起こっているね。

―子供が川で安全に遊ぶにはどうすれば良い？

子供だけで遊びに行かないことが大前提だ。保護者や大人の同伴はもちろん、なるべくライフジャケットとヘルメットを着用すること。はだしやサンダルで遊んでいると、ガラスの破片や先のとがった枝で足を切る恐れがあるため、靴を履くことも忘れないで。実際に川遊びを体験し、身の安全を守るための知識を深めることも大事だよ。

―事故を防ぐために地域で取り組むべきことは？

事故が起きると、住民の間で「川は危険」というイメージばかり付きまとう。しかし、川は人と自然の共生を学べる意味でも教育に最適なフィールド。むやみに近づかせないような対策を取るのは現実的でない。

何より大人たちが川と真剣に向き合い、川に潜む危険を正しく理解した上で、それを子供たちに伝えていくことが求められるよ。

幼い命をのみ込む危険もはらむ子供の川遊び。大人の支えが必要だ。中央は関川会長